

装飾古墳の色彩と素材

Colors and Pigments Adopted by Kofun Period Decorated Tombs

永嶋正春

はじめに

①装飾古墳の顔料

②装飾古墳等の観察例

おわりに

【論文要旨】

日本の装飾古墳なかでも彩色のある装飾古墳は、畿内にある高松塚古墳などの終末期古墳を別とすれば、九州地方、関東・東北地方に集中する。

ここでは、まずはじめにこれら九州、関東・東北地方の彩色古墳について、過去に分析調査された結果を参考にしながら、使用されている色彩と素材について概括した。全体で見れば、赤色、白色、黄色、緑色、青色、黒色の6色があること、素材は、赤色はベンガラ、白色は白土、黄色は黄土、緑色は海緑石、青色は青色岩石の粉末(?)、黒色はマンガン土、炭素であると理解したのである。

次いで、筆者が実際に観察することのできた彩色古墳について、彩色の写真を紹介しながら個別的に検討を加えた。福岡県下の王塚古墳、五郎山古墳、熊本県下の釜尾古墳、宇賀岳古墳、茨城県下の虎塚古墳、福島県下の中田横穴などについて検討したのである。

以上の議論を通して、緑色(海緑石)、黒色(マンガン土)がきわめて特異性を持つことを指摘し、それらの素材が装飾古墳以外の古墳出土品のなかに見出されている例を紹介した。これらの事例は、むしろ装飾古墳との関係性において注意を払うべきものであることを主張し、今後の調査の進展を望むことで論を締めくくった。